



いよいよ追い込みの時期。何事にも全力で取り組もう！

教室から臨む木々もしだいに赤や黄色に色づき、きれいに整備された芝生の上に落ち葉が積もる景色に風情を感じます。学習や運動に最適の季節となりました。3年生においては、120名が受験する「大学入学共通テスト」まで約2ヶ月となりました。また、大学から専門学校まで99名が挑戦する学校推薦型選抜の入試は、今月がピークとなります。いよいよ受験期となり、これからの数ヶ月の過ごし方次第で皆さんの進路が大きく左右されます。全力でがんばってください。1・2年生は、現学年の成績や文理選択・コース選択に繋がる大切な行事が続きます。この11月がそれぞれの学年や高校生活の中でどのような意味を持つかを認識し、真剣に授業に取り組むとともに、毎日の生活パターンや時間の使い方、学習習慣を見直してください。各学年ともいよいよ「まとめ」と「追い込み」の時期です。今までに蓄えた力を発揮し、目標を持って充実した毎日を過ごしましょう。

《11月の進路関係行事》

- 6日(土) 土曜課外(1・2年)
- 20日(土) 全統共通テストプレマーク模試(3年)
- 26日(金) 進路学習調査②
公務員講座⑦(1・2年)
- 12/1(水)～3(金) 定期考査IV



☆ 就職・公務員試験について

9月半ばから始まった民間企業の入社試験において、11/12現在14名が内定を得ています。また、公務員試験では、自衛官2名、警察官1名、消防官1名(延べ数)が1次試験に合格しています。

学校推薦就職内定状況

企 業 名	企 業 名
トヨタカローラ南茨城 株式会社 (2名)	株式会社 日立物流東日本 (2名)
日立建機 株式会社	株式会社 サロンド・ユウ
株式会社 JR東日本ステーションサービス	株式会社 SHOEI
株式会社 LIXIL (3名)	コ・コーポレーションジャパンベンディング株式会社
オートリブ 株式会社	株式会社 エーワン

☆ 小論文対策について

今月からいよいよ学校推薦型選抜の入試がスタートします。小論文が課されている人はしっかり対策をして合格を確実なものとしてください。

1. 出題傾向を把握する

志望校については過去5年分くらいを調べ、出題傾向と設問形式(資料分析型、課題文型、ディベート型など)を把握するとともに他大学の同じ系統の学部・学科の問題にも目を通して出題傾向を把握しておきましょう。

2. 書き方を身につけ頻出キーワードをチェックする

一般に小論文を評価する観点は、①与えられた課題を正確に読み取れているか ②自分の意見を合理的な理由とともに主張できているか ③文章をわかりやすく構成できているか等です。文字数の制限や原稿用紙の使い方が守られていないと採点対象にならないこともあります。文章は簡潔にまとめ、文末は「だ・である」で統一し、問題提起・意見提示・展開・結論の4部構成として文字数は指定の9割以上書くことを心掛けてください。また、その年のニュースに関する新聞の社説や記事、見出しなどからもキーワードをチェックしておきましょう。

3. 書き、添削を受けることを繰り返す

論述する問題・テーマとそれに対する自分の意見をメモしたら、とにかく書いてみることです。何よりも論述が設問に沿ったものになっていることが大切です。書き直しは当然です。制限時間を意識し、1日1本のペースで書き込んでください。

☆ 進路情報

● 専門学校の選び方 ～認可校と無認可校～

① 理解しておきたい、認可校と無認可校の違い

「認可校」とは都道府県知事の認可を受け、職業教育を行う高等教育機関（専門学校）を指します。一方、この認可を受けていない教育機関（学校）が「無認可校」で、こちらは正確には専門学校ではありません。両者の簡単な見分け方として、校名に「専門学校」を冠しているかないかがあります。ただ、校名に「専門学校」を冠していない認可校もあるので、説明会や電話などで確認しましょう。

② 最終学歴や学割の有無など、認可校と無認可校の差は大きい

認可校が満たすべき条件として、「学生数40人以上」「年間授業時間数800時間以上（夜間は450時間以上）」

「修業年限1年以上」の3つが設けられています。また、認可校のメリットとしては、通学定期券の購入が可能であること、学割の適用があること、そして、一定の条件（修業年限2年以上、授業時間数1700時間以上）を満たせば卒業後に「専門士」の称号が付与されるといったことが挙げられます。

一方で、無認可校には規定らしきものはありません。更に、明らかに認可校よりも不利になるが「学歴」で、無認可校を卒業しても最終学歴は「高卒」となります。また、学割も適用されず、定期券は原則通勤用を購入することになります。（一部、通学定期券がみとめられている学校もあります。）

③ 無認可校の中身は千差万別

専門学校選びで特に大切な要素である「授業時間数」も、無認可校では決まりがない分、学校によって本当にさまざまです。中には、授業時間数と学費のバランスが適正とはいえない学校もありますので、この点は必ず確認しましょう。

④ 腕がものをいう業界なら、教育力の高い無認可校で腕を磨く選択肢も

では、無認可校がすべて悪いのかというところというわけではなく、上記に挙げた学歴のデメリットなどを含めた「認可校との違い」をまず理解しておくことが重要です。というのも、少数ですが、無認可校の中には認可校

以上に充実した教育内容を誇り、関連業界で素晴らしい就職実績を上げている学校が存在するからです。これらの学校は肩書よりも技術がものをいう分野であることが多く、「高卒」と「専門学校卒」の差がキャリアにさほど影響しないといえます。最初から無認可校と理解した上で、確かな技術を磨くために門をたたくのであれば、選ぶ価値があるといえるでしょう。

（参考：進路企画）

● 新規学卒就職者の離職状況

① 高校生新規学卒就職者の就職後3年以内の離職率（％）

	1年目	2年目	3年目	合計
平成28年	17.4	11.7	10.1	39.2
平成29年	17.2	12.3	10.0	39.5
平成30年	16.9	11.9	8.1	36.9
平成31年	16.3	10.0		26.3
令和2年	15.0			15.0

② 高校生新規学卒就職者の産業別就職後3年以内離職率のうち、離職率の高い上位5産業

1位	宿泊業・飲食サービス業	61.1%
2位	生活関連サービス業・娯楽業	56.9%
3位	教育・学習支援業	50.1%
4位	小売業	47.8%
5位	医療・福祉	46.2%

（参考：厚生労働省発表 「新規学卒就職者の離職状況を公開します」）